

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

支えあう税金

南会津町立田島中学校

3年 大竹 想笑

私は物心がつくまえから2ヶ月に一度、病院に通っています。15年くらい、車で片道1時間かけて通っています。私は、薬もたくさん飲んでいるので、一度、医療費が大変。と、思ったことがありました。すると、私の母は、18歳までは税金で払ってもらえるということを教えてくれました。私の身体の健康は税金によって守られているということをそのとき初めて実感しました。たくさんのがや病気をしている人の生活を支えている税金は他にどんなことに使われているのか、社会の授業で知ることができました。

資料を使って調べてみると、年間で県民一人当たり約90万6,700円もの税金が使われていることを知りました。その約90万円、どんなことに使われているのか詳しく見てみると、健康の増進や環境衛生などのための費用として衛生費、学校教育や文化の復興のための費用として教育費、その他にも土木費、商工費、民生費、公債費、農林水産業費、警察費などたくさんの税金の使い道がありました。私の住む地域のように震災の被害にあうと税金は災害復旧のための費用としても使われています。そして私たち中学生の年間の教育費101万1,000円も税金で負担されています。

今回、税金の学習をして、人は生まれてから死んでいくまで24時間365日ずっと税金に生かされているということを知りました。今まで公共事業の工事などにしか税金は使われていないと思っていましたが、それは違っていました。他の国の消費税率も見ってみました。一番高い国は、ハンガリーで27%でした。資料で見ると日本より消費税率が高い国は、19か国もありました。数年前に日本の消費税率は5%でしたが、8%

に引き上げになりました。税金について何の知識も無かった私はとても残念に思いました。でも、今はそうは思いません。日本より消費税率の高い国はたくさんあるうえ、生きていくために必要不可欠な税金を集める一つの方法として8%の消費税を納めることは当たりまえと思えました。もっと税金についてよく考え、関心を持ってくれる人が増えたらいいなと思いました。

私が一番考えさせられたことは、人は生きてるだけ、そこにいてだけで誰かのお世話になっているということです。税金のおかげで、ある人は日本中の人を支え、日本中の人はある人を支えて生きているのです。私は常に誰かに支えてもらっていると感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。